



チーム身延

身延町立身延小学校
Tel 0556-62-0066
Fax 0556-62-0368

学校の理念：「すべての子どもに笑顔があふれる学校をつくる」

みんなが幸せになれる！ そのためにできること!!

文責 校長 穂坂洋紀

11月17日（金）の集会の中で、「みんなが幸せになれるための方法」と題して、3つの話をしました。その時の内容を紹介します。

【当日の内容について、要約または一部付加したところもあります】

『恩送り』

「恩」とは、「恵」「慈しみ」「相手に感謝される行動」のことです。

誰かに良くしてもらったときに、その相手にお返しすることを「恩返し」といいます。受けた恩をお返しすることは、もちろん相手のためによいことです。でも恩返しは、「相手に感謝される行動」が、自分と相手だけで終わってしまいます。

「恩返し」も大切ですが、それだけでなく「恩送り」をしてみたらどうでしょうか。

恩送りとは、英語で「ペイ・フォワード」正確には「pay it forward」ということです。意味は「誰かから受けた恩（めぐみ、いつくしみ）を、直接その人に返すのではなく別の人に送ること」です。お互い様ではなく、対象である人が誰であろうとも、気がついたときに気がついた人が、親切に対応するということです。

話を大きくしてしまうと、それが学校外に広がれば、地域がよくなり、みなさんの家族が楽しく暮らせる環境が整っていくことでしょう。この運動がもっと広がることによって、山梨や日本、さらには世界が平和になることにつながると私は考えています。



『「一人ひとりが少しずつ我慢する」ことで「みんなのだいたいの満足」が生まれる』



『みんなが幸せとは』とは、いったいどんな状況なのでしょう。

極端な話をすれば、一人が大満足であっても、他の人が嫌な思いをしていれば、それは、「みんなが幸せ」ということにはなりません。

一方で、ほとんど全部の人が大満足であっても、一人が嫌な思いを強いられているような状況は、やっぱり「みんなが幸せ」とはいえません。

結局、「一人ひとり、全員が大満足！！」ということは、ほぼありえないのではないのでしょうか。

それでは、「みんなが幸せ」に思える状態とはどのような時に生み出せるのでしょうか。

それは、一人ひとりが少しずつ我慢することによって生み出すことができると考えられます。

要するに、「一人ひとりが少しずつ我慢することで、みんながだいたい満足できる」状態が生まれるということです。

言い換えれば、自分を大切にすることはもちろん、相手を大切にすること、尊重することによって、みんなの幸せは実現できるのではないのでしょうか。

『自分の力を人のために』

★1 得意なことを人のために

背の高い人が、高いところのものをとってくれる。

力持ちの人が、重たいものをもってくれる。

算数が得意な人が、わからないところを説明してくれる。

足の速い子が、あんまり早くない子の分までがんばる。

高い声、低い声の出る人が、みんなの分まで出して歌う。 など、など。

このように、自分の長所を人のために活かしてもらいたいと思います。

でも、それだけではなく、

★2 気持ちよく生活できるために、

人が嫌な思いをしないために、

安全に、安心して生活できるために、

あなただけではなく、みんなが楽しく生活できるために、

気がついたことを さりげなく行動に移してほしいのです。

こんなことを言わなくても、すでに、みなさんは行動に移しています。

過去にまた今でも、身延小学校には素敵な光景があります。

- ・授業が始まる時に、気が付かない仲間に「もう時間だよ」と声をかけてくれる人たちがいる。
- ・自分の掃除分担場所が終わったら、違う場所を手伝っている人たちがいる。
- ・友達の下駄箱の靴がそろっていない時に、そっと直して、靴をそろえてくれる人がいる。
- ・トイレのサンダルがそろっていないことに気が付いて、そろえてくれる人がいる。
- ・他の学年のそうじを手伝ってくれる人がいる。
- ・朝や放課後に、正門前の落ち葉を掃いてくれる人がいる。

他にも、

- ・みんなで何かをしようとしたときに、みんなの意見を聞いて大切にしてくれる人。
- ・机やイスが乱れているときに整頓してくれる人。
- ・ごみが落ちているときに拾ってゴミ箱に捨ててくれる人。
- ・給食当番がいなくて、すすんでやってくれる人。

がいますよね。

今出した例は、持って生まれた能力だけではありません，“あなたが意識さえすれば”できることがたくさんあります。

自分の力を人のために使える人になってください。

